

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

長福寺の仏像が県指定に

令和8年3月17日、長福寺(松尾)の木造阿弥陀如来坐像が滋賀県指定有形文化財(彫刻)に指定されました。この仏像は昭和51(1976)年に町指定文化財になっていましたが、今回新たに県指定となりました。

この仏像が伝わった長福寺は、日野小学校の向かいに位置する黄檗宗寺院です。近江日野商人・島崎了善親子が主導し、正明寺(松尾)を再興した黄檗宗の僧・龍溪性潜の流れをくむ僧・了音を招いて、享保9(1724)年に再興されました。これ以前の長福寺の姿は伝わっておらず不明ですが、再興の際、毘沙門天像を本尊としたことから、毘沙門堂とも呼ばれています。

それ以後、立地する石原町(おおよそ現在の松尾2区あたり)の人々により、文政3(1820)年、嘉永2(1849)年に鰐口、明治19(1886)年に梵鐘が寄進されるなど、篤い信仰を受けてきました。

木造阿弥陀如来坐像

長福寺には、毘沙門天像のほかに2躯の仏像が伝わっています。

1 軀目の仏像が今回、県指定を受けた木造阿弥陀如来坐像で、平安時代後期(11世紀)に制作されたと考えられています。

この像の特徴は、ノミによる彫跡を残した形で仕上げる「鉦彫り」という

木造阿弥陀如来坐像(長福寺)



木造十一面観音立像

2 軀目の仏像が木造十一面観音立像で、明治44(1901)年に国指定有形文化財(重要文化財)に指定されています。

また、長福寺の像と姿形、大きさ、彫りのくせなどがほぼ同じ仏像が、兵庫県尼崎市の法園寺に伝わっていて、同じ作者か工房の作と考えられており、全国で唯一、兄弟仏が存在する鉦彫仏であることも特徴となっています。

本像は現在、滋賀県立琵琶湖文化館に寄託されています。



木造十一面観音立像(長福寺)

技法が全身にわたって使われている「鉦彫仏」ということです。鉦彫仏は滋賀

やその周辺地域では比較的珍しく、長福寺の像は、滋賀県で2番目に古い鉦彫仏として貴重なものとなっています。技法的にも、頭部、衣服などの部位によって彫りの深さや向きを変えるなど、繊細で丁寧な表現がなされている点が高く評価されています。

木造阿弥陀如来坐像と同じく平安時代後期(11世紀)に制作されたと考えられています。

頭部の先から足の先まで全身を1本の木材から彫り出した「一木造」で、細身ですっきりとした体つきと優美な姿勢、直線と波状の線が上手く配置された衣の表現などの優れた姿形も評価されています。

こちらも現在、滋賀県立琵琶湖文化館に寄託されています。

木造阿弥陀如来坐像と十一面観音立像はともに平安時代後期の作ながら、江戸時代の長福寺の再興時に納められるまでの来歴は詳しくはわかっていませんが、この周辺地域に古くから大事に守り伝えられてきた像と考えられ、この地の人々の信仰を今に伝えています。

問

近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」

☎ 0748-52-0008